

# 安全教育



第31号

平成22年  
2月26日発行  
発行責任者  
齋藤武彦

財団法人 横浜市安全教育振興会 横浜市中区港町1-1 横浜市教育委員会内  
〔事務局〕 〒231-0014 横浜市中区常盤町3-25サンビル7階 電話 045-662-7835 FAX 045-662-9831  
<http://anshinkai.or.jp> e-mail:anshinkai@extra.ocn.ne.jp

## より自律的な子どもたちに



財団法人横浜市安全教育振興会  
理事長 齋藤 武彦

「緊張するなあ。」「賞状、どうやって、もらえばいいの?」1月16日(土)に行われたポスター展表彰式前の入賞者のつぶやきです。本年度は教文センターの市民ギャラリーを会場として、市内の小・中学校から寄せられた576点の作品の中から64点の入賞作品が展示されました。どの作品も健康・安全のポスターにふさわしいアイデアあふれるキャッチコピーと画面構成、色づかいがなされたもので、審査委員の先生方も感心されていました。1時間弱の表彰式でしたが、参加してくれた入賞者の緊張した顔、得意げな顔、そして、家族とともに自分の作品の前で記念撮影をしている時のうれしそうなお顔をみていて、あらためて横浜の子どもたちの素晴らしさを実感いたしました。

### 賠償責任補償制度を始めて

皆様ご案内のように、平成21年4月1日より子どもたちの日常生活や会員のPTA活動中の方が一の賠償事故に備えるために「賠償責任補償制度」の導入をいたしました。12月末までに申請された事故が250件ののぼりました。詳細は、1年間の実績を踏まえあらためてお知らせいたしますが、これまでの事故の内容を整理してみると、いくつかの明確な傾向が浮き彫りになりました(P5資料参照)。

まず第一に気づいたことは、小学校と中学校との事故の発生件数・発生場所の違いです。全体では小学校が159件に対して、中学校は91件でしたが、その事故の発生場所を小・中で比較してみると、学校外での事故の割合は小学校が67%(107件)に対して中学校は25%(23件)でした。小学校は校外が多いのに対して中学校は校内での事故が圧倒的に多いこと(75%)なのです。

次に、事故の内容をみてみると、小学校では自動車に傷をつけてしまったもの31%(49件)、他家やマンションの共通部分のガラスの破損32%(50件)が多くなっています。また、その原因は石を投げたり蹴ったりしてが55%(23件)と圧倒的に多く、自転車であついたりこすったりというものが29%(12件)になっています。これに対して中学校では車への賠償事故はわずか8%(7件)と少ないのですが、学校のガラスの破損は63%(57件)もあり、その原因は「急いでいて

ドアにぶつかった」「友達と遊んでいてぶつかった」「閉められたドアを開けようとして」「足で開けたら」「ドアを蹴ったら」「割れると思わず叩いたら」などが41%(37件)でした。「キャッチボールをしていて」とか「打球が」とかいう原因は15%(8件)しかありませんでした。

これらの結果を理事会に報告したところ、このデータは学校や家庭・地域での現在の子どもの生活の一端を顕著に表したものであり、是非とも発信すべきだという結論に至りました。各家庭でまた学校で子どもたちの生活をみつめ直し、子どもたちがより自律的に安全で健康な生活が営めるよう心を育てていく必要があるのではないのでしょうか。

### PTA共済法案の成立を

昨年の11月4日に報道された「PTA共済法案、通常国会に」についてですが、1月18日に波乱模様で始まった通常国会では、第2次補正予算案や平成22年度予算案をはじめ、61の法案の一つとして提出されるようです。この法案は文部科学省から提出されるということは分かっていますが、その内容がどのようなものなのかの情報は入ってまいりません。ただ、昨年の6月に民主党から議員立法で提出され審議未了のため廃案となった法案と大きく異なることは考えられません。そこで、保険業法の一部を改正する趣旨で、自主共済のうち健全な団体を母体とする団体まで廃業や解散に追い込まれることは見過ごせないとして少額短期の共済は認める方向で改正が行われるものと想定されます。今度の法案も「審議未了」などとならないことを祈るばかりです。

さて、平成21年度も残すところわずかとなりました。本年度も会員の皆様には、安振会の諸事業にご理解とご協力を賜り心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。平成22年度もどうぞよろしくお願い申し上げます。

# 歯の健康と身体 の健康づくり

## ～中学生が取り組む健康安全活動～

南区 横浜市立共進中学校

健康な身体をつくるには「歯の健康」が、とても重要である。むし歯や歯周病が生活習慣病に含まれていることを各自が理解し、自分のこととして意識を高められるよう、全校生徒にアンケートを取り、全校に発表する機会もつくった。

今までの生活を見直すとともに、これからの生活を快適に過ごし、歯の健康を保つためには、どのようなことが必要であるか理解を深めた。

### 1. 取組方法について

- ① 歯についてのアンケートを実施する
- ② アンケート結果から自己の生活状況と比較する
- ③ 健康を保つために、正しい歯の知識を深める
- ④ 学校医からのアドバイス

### 2. アンケートの項目について

全校生徒を対象に大人の永久歯の数やむし歯、歯石のある人の数、歯磨きの時間や回数、歯によい食べ物を知っているかなど16項目についてアンケートを実施した。

### 3. アンケートの結果

アンケートの16項目をグラフなどにまとめ、それぞれについて説明を行った。正しい歯の数は28本から32本であるが、自分の歯の数を知らない人が多くいたことや歯の病気予防には歯磨きがとても大切であり、毎日ていねいに磨く必要があることなどの発表が行われた。



### 4. 研究発表の内容

歯と口のはたらきには、食べる、話す、呼吸を助ける、表情を表すという、はたらきがあることを改めて確認し、歯の役割、かむ事の効果などを発表した。

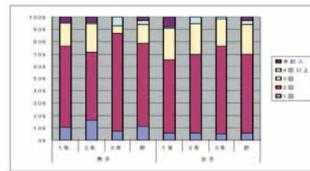
よくかんで食べることは、食べ物を飲み込みやすくするだけでなく、食物を美味しくし、消化・吸収を助けたり、健康に役立つ効果があることを理解した。

急いで食べたり、飲み物で流し込まず、ゆっくり味わって食べることや固い食べ物は1口30回を目安によく噛むことが大切であることや歯のケガについても発表があった。さらに健康な歯を保つ

には、好ましい生活習慣を身につけること。自分の健康状態に関心を持つこと。食事は好き嫌いなく味わって食べる。口の中をきれいな状態に保つこと。歯ブラシ等は目的にあった物を選ぶこと。定期的な歯の検診を実施すること。そして、正しい歯の磨き方や歯に悪い食べ物を知り、生活習慣を乱さないことが大切であることを理解した。

中学生の年齢は奥歯の交換期であり、第一大臼

5. 毎日、歯を磨いていますか？  
【はい】と答えた人はお答えください。  
A. 1日のうち何回歯をみがきますか？  
\* 1回 \* 2回 \* 3回 \* 4回以上



歯がきちんと生えたら、固い食べ物をよく噛むこと。奥歯の生え代わり時は、特に時間をかけて食べる。食べ物が頬や唇の間に入り込まないように、口を結んで頬をつぼめて噛むようにすることなど注意が上げられました。固い食べ物をよくかむことが、将来80歳でも自分の歯20本で生活できることになるだろうとの発表があった。

### 5. 生徒の感想



今回初めて知ったことが多く、とてもためになりました。歯周病の症状が、あてはまっていたので、気をつけたと思います。

歯は自分の身体の一部なので、そのことを再確認できて良かったと思います。虫歯予防は歯磨きだけでなく、よく噛んだり、食生活を見直すことが重要だと思いました。

### 6. 学校医より

身体に必要な栄養源は、歯によって噛みくだかれ、消化・吸収され、血液を通してそれぞれの器官に配分されます。それらの栄養素なしでは、健康な状態に保たれず、いろいろな病気になりやすく、発病したりします。そういう意味では、歯が健康でしっかり噛みくだく事ができる事は、大変重要であります。食物が口に入ることですべてが始まる訳です。

歯の健康づくりが、身体 の健康づくりへと大いに繋がっていることを理解し、明日からの生活習慣を見直してほしいと思います。

# 「食」を通じて「生きる力」を育む

～“家庭のダイニング”からつなげよう～

## 横浜市PTA連絡協議会

### はじめに

横浜が開港して150年の時が経ちました。社会の変化と共に生活環境も一変し、子ども達の育つ地域も育てる大人も変わりました。

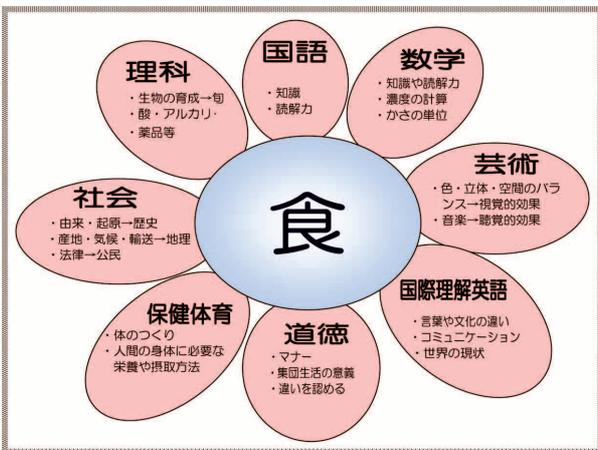
現在横浜市は「小中一貫教育」を提言し、中学校区における小中連携事業が実施に移されています。また、子ども達を地域で育てるために、縦横のつながりを学校家庭のみならず地域連携の拡充を強く意識した取組も多く見られます。

### 研究課題

横浜市P連として、保護者として、子ども達をすこやかに育むために「愛ときずな」をテーマに「食」を通じて子ども達の「生きる力」を育むために様々な活動に取り組みました。

### 活動内容について

日本PTAの関東ブロック研究大会分科会家庭教育の「食育」においては、20・21年度と継続して研究発表することができました。



まずは、子ども達が学び育つ場を念頭におき、「家庭のダイニング」の役割とその広がりについて考えました。

それは「食」から得るものが、国語・算数（数学）・理科・社会・外国語・芸術・保健体育・国際理解・道徳など全ての学習の学びに通じ、ダイニング＝学ぶ場は家庭から学校・地域へと広がっていること。そして、大人にも学びが大切である事を示しました。

活動を重ねる中で、「食」を大切にし、子ども達の食教育に力を注いでくださる方々や団体と多く触れ合い、情報交換する機会に恵まれました。

乳幼児とその保護者を対象にした、栄養相談や食育指導の先生方。幼稚園や保育園などの未就学児が通う施設での、キッズキッチンにおける子ども対象の食育教室や畑作りと食物栽培による自然

教室を絡めた食育指導にも出会いました。小学校給食における栄養教諭による栄養指導や給食献立を利用した「食教育」。総合の時間や養護教諭などによる特色ある授業。また、それを支えるPTA活動や地域の農家とのふれあい活動など。

しかし、どの活動もすばらしく熱意あふれているのに欠けているものがありました。「食」への取組の継続です。

横浜市立中学校は給食ではなく、親子のコミュニケーションがとれる「お弁当」です。6年間かけて育てた「食」への関心が、家庭中心に戻っています。また、中学校サイドでも受け止める準備や認識に力を注いでいるところは多いとはいえないのが現状です。

21年度は、先に述べた小中一貫教育における、小中連携事業による「食」「食教育」のつながりや連続性を訴えるものとなりました。

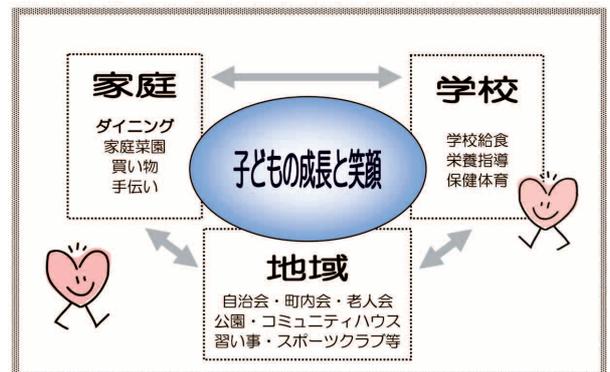
子ども達の育っていく過程の中で、行政や大人の都合で失われる事が無いよう、どこの誰が、またどのような組織や団体が関わればよいのかを考えました。幸いにして、今年度食育推進検討委員会が発足し、一委員として食に関わる様々な分野の方々のご意見を吸収することができています。

「笑顔をつなぐ食のきずな」は、単体や組織を介してつながりをつないでいく者が必要であると訴えました。

### まとめと課題

子ども達は、家庭の中で規範意識を学びます。「食」を通じて学ぶ事は、箸の上げ下ろしから始まり、社会生活を営むことができるようになるまでの様々な知識や知恵と生きる力。その長い長い道のりに、家庭・学校・地域の連携と支えは、いたるところに必要です。

今に携わる現場の大人だけではなく、今まで子ども達に関わり支えてきてくださった方々にも、躊躇のない支援をお願いし、社会全体で子ども達を育てていければよいと考えています。



# おはよう！から始まる子どもとの一日

旭区 横浜市立左近山小高小学校  
河合 美智枝

朝。昇降口で全校の子どもたちと会う。「おはよう」と大きな声で返事をする子もいれば、走ってきて抱きつく子もいる。ちょっと照れくさそうに登校する子や眠そうな表情の子もいるが、今日も笑顔の子が多くほっとするひと時。子どもたちが毎日登校するのが、当たり前のことではないことを私は、何

人も不登校の子どもたちに教えられた。「今日も学校に来てくれてありがとう」そんな



な気持ちで毎朝子どもたちを昇降口で迎える。私の大きなおはようという声の横を、隠れるようにそっと通り過ぎる子もいる。朝のちょっとしたひと時にも、一人ひとりその子の個性が出ていておもしろい。

タイミングが悪く私に「おはよう」の声をかけられなかった子は、わざわざ私の側に来て「私来てるよ」というサインを出す。どの子も、自分と関わって欲しい、ひと時だけでも自分だけに声をかけて欲しいというサインを感じるのは、私だけだろうか。

そんな中、いつもと表情が違う子に気がつく。下を向いて元気がない。朝からいったいどうしたのか。問いかけるうちに、蚊の鳴くような声でボソボソと話してくれた。昨夜両親が大げんかした上、別れる別れないの言い合いになったとか。それが心配で……。話しているうちに涙目になってしまった。「わかった、わかった」と肩をさすりながら保健室で話を聞くことにした。大人にとっては、一時の口げんかかもしれない。あるいは、本気かもしれない。しかし、どちらにしろ、子どもの大好きな両親がけんかをして「別れる」という話まで子どもの耳に届けば、穏やかではない。そのことが解決するまで、この子は毎日両親の顔をうかがいながら、ドキドキした毎日を送ることになるだろう。担任と共にしばらく様子を見ていこうと思う。

「先生、おなかが痛いヨオー」どれどれ。熱を測りながら、話をする。保健室には毎日様々な子どもたちが入り出す。体調が悪い子。ケガをしてくる子。本を読みに来る子やなんとなく気分転

換に来る子。「先生と話したいから」とうれしいことを言ってくれる子もいる。子どもたちが、その子なりに保健室を活用してくれることが、なによりうれしい。

具合の悪い子には、必ず問診と触診をする。就寝時間や朝食の様子、排便の有無や今日の予定などを聞きながら、おなかをさすったり手を握ったりしてその肌の感触を確かめる。痛みの原因は、様々なところに潜んでいる。身体的な原因をクリアしても教室へもどろうとしない子も多い。保健室でのこのひと時、わたしはこの子だけの先生になる。向かい合い、いろいろな話をしながら原因を探っていく。体の話から友人関係。習い事が大変なことや担任の噂話も時々。

そのうち「あのネ・・・」と本当に話したかったことを話し始める。仲良し3人組が上手くいっていない様子。子どもにとっても人間関係がスムーズにいかないのは何より辛い。まずは、子どもが



思っていることを聞く。変だな、そんなことはないだろうに思っても否定はしない。「そうなんだあ、それじゃあ、頭も痛くなるよね」と受け入れる。話した後は、子どももなぜだか表情が和む。誰かに話すとほっとするのだろう。大人の私たちにもそんな経験はないだろうか。何とかして欲しいというより、誰かに聞いて欲しい気持ちが強い。話しながらほとんどの子どもは自分で解決していく。小さな社会＝学校でできる大きな社会勉強のひとつだ。

子どもたちの体と心は大人以上に一体化している。その上、なにが辛いのか嫌なのか表現力に乏しいため、まずは身体症状として現れる。顔色や表情でもわかる時があるが、とにかく子どもと話をする。何でも話してくれるような人間関係を作るために、私はなるべく子どもたちと共に過ごす経験・時間を多くもつようにしている。朝、昇降口で子どもを迎えるのもそのひとつ。

子どもたちの体と心は大人以上に一体化している。その上、なにが辛いのか嫌なのか表現力に乏しいため、まずは身体症状として現れる。顔色や表情でもわかる時があるが、とにかく子どもと話をする。何でも話してくれるような人間関係を作るために、私はなるべく子どもたちと共に過ごす経験・時間を多くもつようにしている。朝、昇降口で子どもを迎えるのもそのひとつ。

今朝は雨。冷たい雨の中、濡れて登校する子どもたちを迎えるためにタオルを持って行こう。養護教諭は全校児童の担任だから、みんな私の学校の子。「おはよう、寒かったね。雨にぬれなかった？今日も楽しいことがあるといいね」

## 平成 21 年度 安全教室の開催

	日 時	防災安全教室 9:50~11:50	救急救命法教室 9:00~12:00
第1回	平成21年 6月19日(金)	40名	52名
第2回	平成21年 7月17日(金)	33名	48名
第3回	平成21年 9月10日(木)	39名	48名
第4回	平成21年 10月30日(金)	37名	46名
第5回	平成21年 11月20日(金)	26名	42名
第6回	平成21年 12月 4日(金)	24名	42名
	計	199名	278名

**会 場** 横浜市民防災センター

**内 容**

【救急救命法教室】

- \* 普通救命講習
  - ・心肺蘇生法
  - ・「AED」の取扱い方法
  - ・止血法

【防災安全教室】

- \* 防災講和
- \* 地震体験
- \* 消火器体験
- \* 展示コーナー見学



## 平成 21 年度 賠償事故状況概要（12月末現在）

校 種	事故総数	校 内	校 外	車損傷	ガラス破損	メガネ損傷	対人事故	その他
小学校	159件	52件 (33%)	107件 (67%)	49件 (31%)	50件 (32%)	26件 (16%)	18件 (11%)	16件 (10%)
中学校	91件	68件 (75%)	23件 (25%)	7件 (8%)	57件 (63%)	9件 (10%)	3件 (3%)	15件 (16%)
計	250件	120件	130件	56件	107件	35件	21件	31件

- ・巻頭言で触れた事故状況の概要です。
- ・各項目の割合は、各校種の事故総数に対するものです。
- ・来年度になりましたら、21年度全体の報告をさせていただきます。

# 人は見た目が9割

講師 宝塚造形芸術大学教授  
竹内 一郎 先生

～子育てにおけるノンバーバルコミュニケーションの重要性～

平成 21 年 11 月 27 日 (金)

参加者：約 400 名

横浜市教育文化センター教育文化ホール

(横浜市立小/中/特別支援学校/高校保護者、教職員、学校関係者)



## 見た目判断は0.5秒

同じ言葉でも、表情、しゃべり方、アクション、服装など言葉以外の非言語情報でバックアップされていない言葉は、さほど人の魂を揺さぶりません。非言語コミュニケーションには、「パラ言語（声の高さや大きさ質など）」「身体的動き（身振りや姿勢など）」「身体接触（握手や抱擁など）」「身体的特徴（体型や容姿）など」「人工物（衣服や化粧など）」「空間行動（相手との距離や着席行動など）」があります。

私たちは非言語情報にもっと目を向ける必要があります。非言語情報について、フロリダ州立大学の心理学者ジョン・マナーが行った実験結果では、「友達になれそうだ」「魅力的だ」などのシンプルな判断に要する時間は、わずか0.5秒でした。生き方は顔に現われます。リンカーン米国大統領は「40歳にもなれば、自分の顔に責任をもたなければならない」、ジャーナリストの大宅壮一は「男の顔は履歴書」と言っています。

この10年間の脳科学界最大の出来事として、「ミラーニューロン仮説」が発表されました。Aさんがあることでアクションを起こすと、ミラーニューロンが脳皮質の前頭葉に反応します。そのアクションを見ただけのBさんにも、同じミラーニューロンが反応するというのです。外見的要素で人を判断するのは、自分のミラーニューロンが同様に動いたときに相手の精神状態を判断するからだ、と考えられています。つまり、見た目です人を判断するということは、結局、自分の内面を

判断しているということなのです。

## 非言語情報でチェックする時代

なぜ非言語情報は大切なのでしょう。インターネットなどの普及で画像情報の地位が高まっています。インターネットの情報は新聞などのようにウラを取っていません。言語情報を吟味する能力が問われる社会が成立しつつあります。最良のチェック方法は、非言語情報です。実際に会うなどして、非言語情報でバックアップされた言語情報なら判断できます。

少子化が進みました。子どもはモニター相手の時間が長くなり、表情を学ぶ機会を失っています。母親は笑顔を教える最良の先生です。笑顔は情報伝達の最重要ファクターなので、笑顔をたくさん見せてあげてください。また、外国人の流入は、一層拍車がかかるでしょう。多民俗化すると、ジャパニーズ・スマイルのような曖昧模様な伝達方式では通用しない社会がやってきます。

## 言葉が伝えるのは7%

心理学に「ノンバーバルコミュニケーション」という領域があります。言語以外の要素が、言葉よりも伝達力があるということがわかってきました。心理学者のアルバート・マレービアンの実験によれば、言葉は7%しか情報を伝えない、という結果が出ています。一方、顔の表情は55%、声の質（高低）・大きさ、テンポは38%を伝えています。

動物行動学者のデズモンド・モリスは、人間の嘘をつかない、つまり、信頼できる動作を高い順に並べています。「自律神経信号」が1番で、「下肢信号（爪先や指）」「体幹（胴体）信号」「見分けられない手ぶり」「見分けられる手のジェスチャー」「表情」と続き、最下位が「言語」です。

朝日新聞の調査では、初対面で好印象を与える自信がないは57%あるのに対し、第一印象を重視するは82%でした。また、外見の重みを7・8割と答えた人は25%で、約5割と答えた人が42%、さらに、「良い印象を与えるための心が

けは」という問いには、「相手の話をよく聞く…1763人」、「自然な笑顔…918人」でした。

### コミュニケーション上手は聞き上手

話し方が上手なだけでなく、聞き上手な人が本当のコミュニケーション上手です。相手の話を聞く人は、アイコンタクト上手、うなずき上手、表情が柔らかいです。コミュニケーションは双方向性ですから、聞くトレーニングもしている人がいい情報を入手できます。

テレビ番組『ためしてガッテン』では、同じ話でも話し手が無表情では相手に楽しいと思わせないこと、逆に、聞き手が無表情であれば話し手が動揺し表情も硬くなること、そして、感情と表情は伝染することを実証していました。

### 笑顔トレーニングや顔ストレッチを

非言語情報は強化する必要があります。方法はいくつかあります。まず、心を開きましょう。たとえば、聞く意思を示すには、足を肩幅まで開いて立ちます。腰に力感を添えたり、時々掌を見せます。人に見られていても恥ずかしくない役者感覚になりましょう。世阿弥の言葉に「目前心後」があります。目は前を見、心は後ろ（背中）に置いて美しい背中で舞いなさい、という意味です。

声を豊かにしましょう。モノトーンで喋らないことや、声帯を鍛え満遍なく使って心地よい抑揚にすること、言葉のイメージを描いて話すことです。明るさで人を惹きつけましょう。心からの笑みが顔に伝達できるように、笑顔のトレーニングや顔のストレッチをしてください。

流れでイメージを描きましょう。背中をきれいに見せるため、上半身は平行移動します。立ち居振る舞いは、流れるような一連の動作をイメージするときれいになります。聞く時には相手の目を見ましょう。目をそらすと自信なげに見えます。ただし、見つめ過ぎはいけません、目線には適切なゾーンがあります。

### 「間」には伝達力がある

間の伝達力を学びましょう。大切な言葉を喋る時は一間を置きます。ただし、間の空き過ぎや置き過ぎは間延びしくどくなりますから、半間にします。信頼感は回数で勝負しましょう。心理学者ザイアンスの調査結果では、接触の回数に比例して好意も増すことがわかっています。ミラーリング（鏡効果）しましょう。子どもは、大人をコピーするようにミラーリングして似ていきます。どうせ真似るなら、好きな人や尊敬できる人の真似

をしたらどうでしょうか。

表情や喋り方に比べると優先順位は下がりますが、一つか二つ、高価なものを身に付けましょう。役者は生まれつき美しい立ち居振る舞いをしていたわけではありません。借りた小道具を壊してはいけないので、立ち居振る舞いが良くなるのです。授業中に子どもが指の間でボールペンなどをくるくる回す動作は、高価な万年筆などに替えると少なくなります。

### 「上手くそ」になってはいけない

下手くそにはなってもいいけれど、上手くそにはならないようにしましょう。高校生の野球は下手ですが、甲子園で5万人の観客の胸を打ちます。プロ野球選手のようにやり慣れてしまう上手くそは、観客の胸を打ちません。伝えようとする気持ちさえあれば下手でもいい、ということです。

ここ700年余り、能役者は同じ台本を喋り続けています。「縁者の意識が、型どおりのことをやればそれで良いのだ、という惰性に流れてしまう恐れがある。そうなれば、演技は瑞々しい緊張を失い型どおりの空虚な形式だけが残るでしょう。単なる形式は心に訴えかけません。型を生かすも殺すも最終的には演者の心にかかってきます」と、観世清和さんが言っています。

しかし、心は見えません。観世さんは「心とは気持ちや心がけといった軽々しいものではなく、停滞と惰性を打ち破り、新たなものを創造しようとする精神、力強い生命力にほかなりません」と続けています。

子どもたちは日々私たちを越える気付きで、私たちを観察し、表情やアクションなどいろいろなものを学習しています。表情や聞き上手も、言葉や知識以上に大切なコミュニケーションツールです。心の変化が表情にすぐに反映できるトレーニングをすれば、きっと親子関係も変化するでしょう。





# 「健康と安全」

応募点数 ● 576点

受賞作品 ● 特別賞18点 入選21点 佳作25点

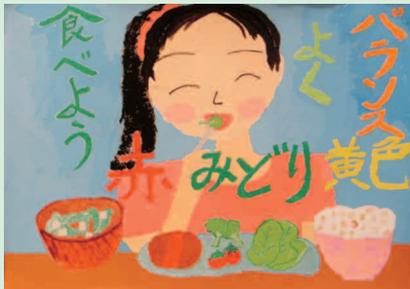
審査委員 ● 横浜市中学校美術研究会会長 畠山 崇 先生 (横浜市立日野南中学校長)  
横浜市図画工作研究会会長 ハッ橋 洋一 先生 (横浜市立駒岡小学校長)

## ◆横浜市長賞



「木の葉一枚の道しるべ」  
名瀬小学校6年 新妻 大空

## ◆横浜市教育委員会 教育委員長賞



「バランスよく食べよう」  
西が岡小学校2年 中井 梨夏子



「げんきの源、まるごと野菜」  
日限山中学校3年 岸良 朋子

## ◆横浜市教育委員会 教育長賞



「止まってくれて ありがとう」  
中丸小学校6年 小林 将万



「ぼくから元気のあくりもの」  
西本郷小学校3年 西川 弘貴



「ゴミが地球を壊す凶器となる」  
富岡中学校2年 江尻 祥

# ポスター展

展示期間:平成22年1月 12日(火)  
~1月 18日(月)  
展示会場:横浜市民ギャラリー

## 財団法人 横浜市安全教育振興会 理事長賞



「共に生きよう」  
西本郷中学校3年  
磯 祐介



「かぞくてわらおう」  
都筑小学校2年  
牧田 隆広



「とびだしキケン! おたがいカクニン忘れず!!」  
中丸小学校5年  
横尾 美星



「みんなで街づくり」  
中和田中学校3年 邊見 優介



「守りたい この命」  
富岡中学校2年 高山 春菜

## ◆横浜市PTA連絡協議会 会長賞



「明るい家庭は元気の工場」  
港南台第一小学校5年 上出 頼奈



「うがいをしよう」  
洋光台第三小学校3年 伊藤 良貴

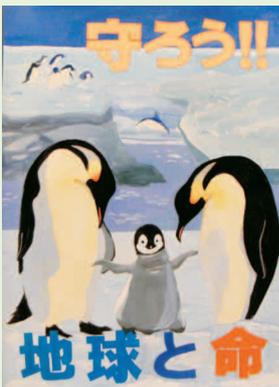


「限りある資源」  
富岡中学校2年 高島 亜紀

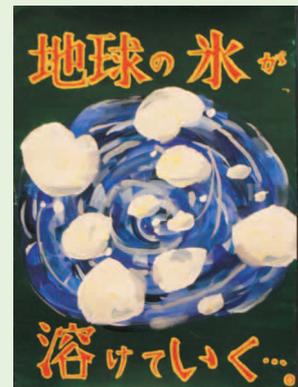
## ◆神奈川新聞社賞



「ぼくもわたしもシートベルト」  
中丸小学校3年 永澤 花菜



「守ろう!! 地球と命」  
潮田中学校1年 松尾 怜奈



「地球の氷が溶けていく」  
富岡中学校2年 長塚 詩央

■加入状況

平成21年度加入状況

校種	校数	賛助会員数	世帯数
小学校	346	346	149,817
中学校	145	145	68,882
高等学校	5	5	3,362
特別支援学校	12	12	1,290
総計	508	508	223,351

平成21年度役員・審査委員名簿

顧問	横浜市教育委員会教育長 田村 幸久		
役職	氏名	備考	
理事長	齋藤 武彦	学識経験者	○
常務理事	遠藤志津江	学識経験者	○
常務理事	渡邊 薫	学識経験者 元小学校長会長	○
理事	入内嶋周一	市教委 学校教育部 小中学校教育課長	
理事	清水 文子	市教委 学校教育部 健康教育課長	○
理事	福島 博	市教委 生涯学習部 生涯学習課長	○
理事	豊田 則夫	小学校長会代表 鶴ヶ峯小学校長	○
理事	石井 秀明	中学校長会代表 共進中学校長	○
理事	田邊 政美	特別支援学校長会代表 盲特別支援学校長	
医師理事	鳥山 克佳	学識経験者 市医師会推薦	○
理事	黒川 典功	学識経験者 元中学校長会長	
理事	安田 渡	横浜市PTA連絡協議会会長	○
理事	長島 由佳	横浜市PTA連絡協議会副会長	○
理事	竹本 靖代	横浜市PTA連絡協議会副会長	
理事	峪 文隆	学識経験者 保護司 人権擁護委員	
理事	三枝木鉄朗	学識経験者 民生委員 児童委員	
理事	青木俊太郎	学識経験者	
監事	高橋 寛	市教委 総務部 総務課長	
監事	荒城 玲子	横浜市PTA連絡協議会書記	
審査委員	新納 憲司	横浜市医師会副会長	
審査委員	真部 修	真部歯科院長	

○印は審査委員兼務

■見舞金等の給付

平成20年度見舞金等給付一覧表

(平成20年4月1日～平成21年3月31日) (単位) 円

給付別種・事由・対象	給付件数	給付額	
1 児童生徒事故見舞金	児童 (1) 傷害事故	2,312	25,592,370
	生徒 (1) 傷害事故	205	2,982,095
	児童 (2) 障害	14	485,550
	生徒 (2) 障害	0	0
	児童 (3) 交通事故	126	378,000
	生徒 (3) 交通事故	30	90,000
小計	2,687	29,528,015	
2 児童生徒弔慰金	児童 (1) 学校管理下外事故死	0	0
	生徒 (1) 学校管理下外事故死	0	0
	児童 (2) 交通事故死	0	0
	生徒 (2) 交通事故死	0	0
	児童 (3) 登下校中の交通事故死	0	0
生徒 (3) 登下校中の交通事故死	0	0	
児童 (4) 病死等	8	240,000	
生徒 (4) 病死等	1	30,000	
小計	9	270,000	
3 保護者弔慰金	小学校	90	2,700,000
	中学校	89	2,670,000
	高校・特別支援	4	120,000
小計	183	5,490,000	
4 PTA主催見舞金	(1) 傷害事故	31	648,510
	(2) 障害	0	0
	(3) 交通事故	1	3,000
	(4) 事故死	0	0
	(5) 往復途次の交通事故死	0	0
	(6) 病死等	0	0
小計	32	651,510	
合計	2,911	35,939,525	
振込手数料	2,071	622,125	
総計		36,561,650	

平成21年度上期見舞金等給付一覧表

(平成21年4月1日～平成21年9月30日) (単位) 円

給付別種・事由・対象	給付件数	給付額	
1 児童生徒事故見舞金	児童 (1) 傷害事故	1,092	12,485,070
	生徒 (1) 傷害事故	113	1,507,910
	児童 (2) 障害	5	197,850
	生徒 (2) 障害	0	0
	児童 (3) 交通事故	62	186,000
	生徒 (3) 交通事故	12	36,000
小計	1,284	14,412,830	
2 児童生徒弔慰金	児童 (1) 学校管理下外事故死	1	500,000
	生徒 (1) 学校管理下外事故死	0	0
	児童 (2) 交通事故死	0	0
	生徒 (2) 交通事故死	0	0
	児童 (3) 登下校中の交通事故死	0	0
生徒 (3) 登下校中の交通事故死	0	0	
児童 (4) 病死等	4	120,000	
生徒 (4) 病死等	1	30,000	
小計	6	650,000	
3 保護者弔慰金	小学校	45	1,350,000
	中学校	34	1,020,000
	高校・特別支援	2	60,000
小計	81	2,430,000	
4 PTA主催見舞金	(1) 傷害事故	9	150,060
	(2) 障害	0	0
	(3) 交通事故	0	0
	(4) 事故死	0	0
	(5) 往復途次の交通事故死	0	0
	(6) 病死等	0	0
小計	9	150,060	
合計	1,380	17,642,890	
振込手数料	967	297,675	
総計		17,940,565	

### 修学奨励金の給付

小学校	155人
中学校	50人
高等学校	6人
特別支援学校	12人
計	223人 7,430,000円

(給付額は小学生3万円、中学生4万円、高校生5万円)

### 安全教育推進団体に対する助成

1	申請のあった単位PTAに対する助成	1校4万円(上限) 400校	15,943,300
2	区・部会PTA講演会研修会等助成		3,800,000
3	横浜市PTA連絡協議会事業助成		2,400,000
4	第26回横浜港カッターレース		100,000
	(社)横浜勤労青少年福祉協会「夏休みお楽しみ教室」		100,000
	第18回関東地区公立小・中学校女性校長会研究協議会		100,000
	第16回若者の飲酒を考えるフォーラム		200,000
	第7回学校給食展示会		200,000
	横浜市民ギャラリー「横浜市内子どもの美術展2009」		100,000
	ハマキッズ・アートクラブ2009		50,000
	第14回野島クリスマスキャンプ2009		200,000
	磯子区小中学校インディアカ大会		50,000
	第54回全国小学校体育科教育研究会横浜大会		100,000
	第7回横浜市小学校タグラグビー交流会		105,000

### 会報の発行

第31号 平成22年2月26日 加入校全世帯へ配布

## 区・部会講演会研修会の開催

★各区・部会において、次の講演会研修会が開催されました。

区名	開催日	会場	事業名	講師
鶴見	12/5(土)	鶴見公会堂	「子どもたちとテレビ～その知られざる影響～」	有田 芳生
神奈川	9/18、11/12	青木小学校 神奈川図書館	スクールカウンセラー勉強会 読み聞かせボランティア交流研修会	スクールカウンセラー 岡本一敏 司書 三宮智英子
西	2/19(金)	西公会堂	第3回委員研修会 講演会「児童虐待について」	ヴィヒャルト 千佳子
中	10/29他3回	開港記念会館 他	講演会「食育、健康づくりを考える」「自然と子育て」スポーツ文化・交流会	高橋 良寿 竹内 瞳 福田 琴絵 他
南	1/9(土)	南公会堂	講演会 「夜回り先生」	水谷 修
港南	9/11(金)	港南公会堂	「地球のステージ ～国境を越えて～」	NPO法人地球ステージ 代表理事 桑山 紀彦
保土ヶ谷	1/26(火)	保土ヶ谷公会堂	「ふれあいのつどい～子供の笑顔 地域とともに」	中島 啓江
旭	1/21(木)	旭公会堂	「こどもを叱れない大人たちへ」	桂 才賀
磯子	1/26(火)	らびすた新杉田	「感動の一瞬～サッカーからのメッセージ」	清雲 栄純
金沢	12/9(水)	金沢公会堂	「親と子のコミュニケーション」 ～この横浜にまさるあらめや～	中村 裕介
港北	6、11、2月	師岡小学校他23校	港北区PTA交流会	
緑	2/26(金)	緑公会堂	「こどもを叱れない大人たちへ」	桂 才賀
青葉	11/26(木)	青葉公会堂	「子どものトラウマと心のケア」	武蔵野大学人間関係学部教授 藤森 和美
都筑	2/8(月)	都筑公会堂	「明るく、楽しく、そして諦めない～子どもの才能の見つけ方、伸ばし方～」	辻井 いつ子
戸塚	12/11(金)	戸塚公会堂	「子育て世代へメッセージ～今を輝いて～」	五大 路子
栄	12/17(木)	栄公会堂	「大人の元気が子供をかえる」	ミツイシ ユキコ
泉	11/14 他	泉公会堂 他	あーよかったな あなたがいて 「優しさ」という温かい貯金 研修会 ブロック交流会	仲島 正教
瀬谷	12/17(木)	瀬谷公会堂	「大人の知らない子どもたち～今、子どもたちが思っていること～」	作家・高野山真言宗僧侶 家田 荘子
高校	11/19 他	戸塚高校多目的ホール 他	「教育改革のゆくえ」 他	国際基督教大学教授 藤田 英典 他

# 安全教育団体に対する助成

—各団体における活動の一コマ—

## 横浜市PTA連絡協議会助成

事業 ◆第26回山下公園ファミリー写生大会 (Y150とタイアップして実施)  
 実施日 ◆平成21年4月29日(祝)  
 展覧会 ◆平成21年5月29日(金)～5月31日(日)(表彰式5月31日)  
 場所 ◆山下公園(写生大会)  
 桜木町びおシティ ゴールデンギャラリー(展覧会・表彰式)  
 参加者 ◆約25000名

今年の写生大会は、横浜開港150周年に合わせて実施されました。朝から天候にも恵まれ、近年にない多くの家族の参加を得ることができました。参加者が多かったため画用紙が足りなくなるハプニングもありました。山下公園は、絵を描く家族で埋まりまさに日本で最大のファミリー写生大会となりました。



## 区・部講演会・研修会助成(区研修会事例)

事例 ◆第77回 鶴見区PTA連絡協議会～親が学び 子ども学び 地域で共育～  
 講演会 ◆「子どもたちとテレビ～その知られざる影響～」  
 講師 ◆フリージャーナリスト 有田芳生(ありたよしふ)氏  
 実施日 ◆平成21年12月5日(土) 午後2時  
 会場 ◆鶴見公会堂

講演内容 ◆現代の子どもは、言葉の獲得を実生活の中ではなく、テレビやインターネットで実感なき言葉にさらされ獲得していく状況があります。昭和の時代に日常的にみられた路地裏の遊びや缶蹴り隠れん坊などの遊びで培われた人と人のふれあいの経験とそこでやりとりされて獲得された言葉の意味を再確認し、今必要なことは心と身体が一体となった「経験」であると話をされました。



## 単P事業助成(小学校事例)

小学校事例 ◆横浜市立平戸台小学校PTA  
 事業 ◆「親子ふれあい木工作教室」  
 講師 ◆神奈川土建一般労働組合横浜戸塚支部  
 実施日 ◆平成21年8月2日(日)

毎年行っているPTA主催の「親子ふれあい木工作教室」。今年も神奈川土建労働組合戸塚支部の皆さんのご協力を得て開催いたしました。当日は、あいにくの雨天になってしまいましたが、優しく親切な建築職人さんの方々にノコギリやトンカチの使い方を教えていただき、親子で力を合わせて、ミニベンチや飾り棚を完成することができました。「ちょっと難しかったけれどお父さんにほめられて嬉しかった。」「親子のコミュニケーションには、いいですね。家でもやってみたいと思います。」など、夏休みの一日を親子で楽しく過ごしました。



## 単P事業助成(中学校事例)

中学校事例 ◆横浜市立西本郷中学校PTA  
 事業 ◆「お弁当大好き！  
 ～毎日のお弁当作りが楽しくなるヒント」  
 講師 ◆枝元 なほみ先生  
 実施日 ◆平成21年11月18日(水)

食育をテーマに、料理研究家の枝元なほみ先生をお招きして講演会を開催しました。毎日のお弁当作りに奮闘中のお母さんたちには嬉しい、三色そぼろ弁当(鶏そぼろ、鮭そぼろ、卵そぼろ)を実際に調理しながらの、楽しいお話でした。大変優しい語り口で、食のこと、農業のこと、生き方そのものについて話が広がり、日々の暮らしに役立つヒントをたくさんいただいた講演会となりました。



## 横浜市こどもの美術展2009

日時 ◆平成21年7月29日(水)から8月3日(月) 6日間  
 会場 ◆横浜市民ギャラリー 1・2・3階展示室  
 出品数 ◆3277点(個人・グループ作品:0歳から12歳まで)  
 来場者 ◆6700人

横浜市内で40年以上続いているこどものための展覧会。出品者には同展のマスコット、ハマキッズ・コロロの缶バッジをプレゼント。また、会期中来場者は女子美術大学と連携して開催したワークショップや障害児療育支援のために開発された「たっちゃんのコネク島」というタッチパネルゲームなども合わせて楽しみました。



## 磯子区小中学校インディアカ大会

日時 ◆平成21年11月23日(月)  
 会場 ◆横浜市立大学体育館  
 参加 ◆磯子区インディアカ同好会会員

磯子区内の小・中学校の保護者たちが一同に集まり、インディアカを楽しむことにより親睦を深めPTA活動の更なる向上を目指すと共に、スポーツを通じて自らの健康増進を図ることを目的としています。

当日は参加チーム(混合A44・混合B13・女子11)68チームで熱戦が繰り広げられました。開会式から和やかな雰囲気の中、楽しく交流ができました。ちなみにインディアカで交流している区は磯子区だけだそうです。



## 第14回野島クリスマスキャンプ2009

日時 ◆平成21年11月28日(土) ふれあいの会 220名  
 平成21年12月12日(土)～13日(日)  
 第14回野島クリスマスキャンプ2009 205名  
 場所 ◆野島青少年研修センター  
 参加者 ◆児童生徒・保護者・ボランティア・実行委員等

今年はボランティアを対象にした障害児理解研修を10月28日・31日に開催しました。初めての試みとして、ふれあいの会のカレーライスを保護者が作り楽しい昼食でした。キャンプ当日は児童生徒はクリスマスディナー作り、保護者はクリスマスケーキ作りをして楽しくディナー。キャンドルファイヤーでは弦楽器の演奏に合わせて歌ったり踊ったりで楽しみ、サンタからのプレゼントに嬉しそう。2日目の親子活動は軍手を使ったキャラクター作りをして楽しく2日間を過ごしました。

